

令和6年度 第1回
富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会

▶ 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会地域公共交通計画について

— 目次 —

1. 事業概要 1

2. 事業スケジュール 2

3. 地域公共交通の現状、問題点等の整理 3

1 事業の目的

(地域公共交通の維持・活性化に向けた取組み)

金剛自動車株式会社が行うバス事業は、富田林市・太子町・河南町・千早赤阪村の4市町村を結ぶ公共交通機関として、地域住民の生活移動や地域づくりに欠かすことのできない社会基盤として位置づけられていました。

しかし、バス事業の廃止に伴い、早急に地域住民の移動手段を確保することが余儀なくされ、令和5年度に代替手段として「金剛ふるさとバス」が導入されました。4市町村と事業者が連携して現在も運行を継続していますが、運行を維持するための財政負担が増加している現状にあります。

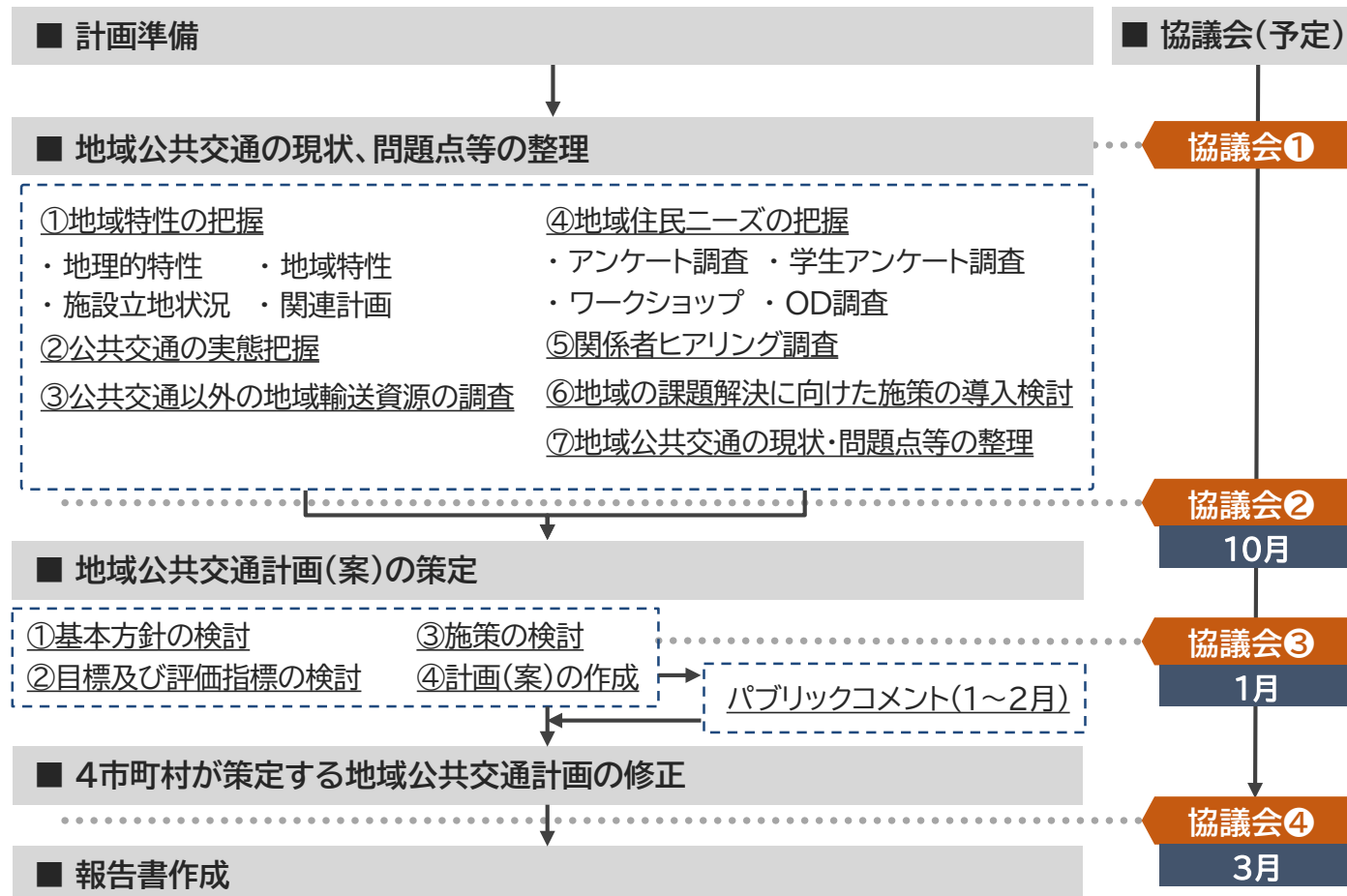
そのため、広域版の地域公共交通計画において、今後維持していくべき路線を位置付けることにより、国等の補助事業の活用が期待でき、持続可能な公共交通の維持につなげることが重要と考えられます。

(4市町村が一体となり取り組む公共交通施策の必要性)

令和6年4月から物流・運送業界における働き方改革により、ドライバーの時間外労働時間の上限が設定されるなど、公共交通の維持は今後ますます厳しいものになっていくと考えられます。一方で、高齢化の進行に伴い運転免許証を返納される方の増加など、公共交通の重要性は増す状況にあり、このような公共交通を取り巻く環境の変化を見据えた地域公共交通の対応が求められています。

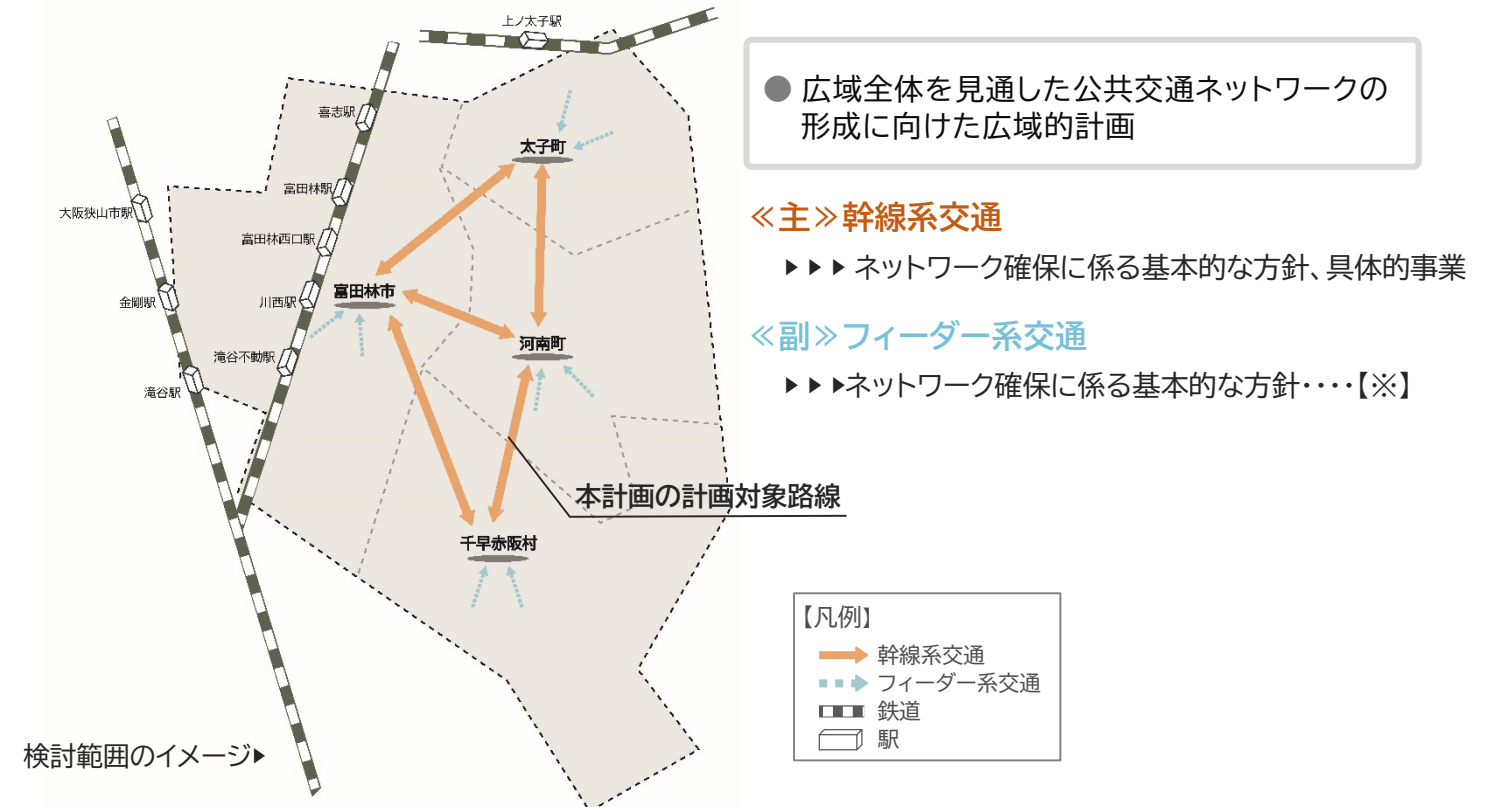
そのため、各市町村で策定している地域公共交通計画に加え、広域版の地域公共交通計画を策定し、市町村をまたがる広域的な視点で公共交通施策の検討を行うことで、4市町村が一体となって地域公共交通の維持・活性化に取り組むことが重要となります。

2 事業の実施フロー

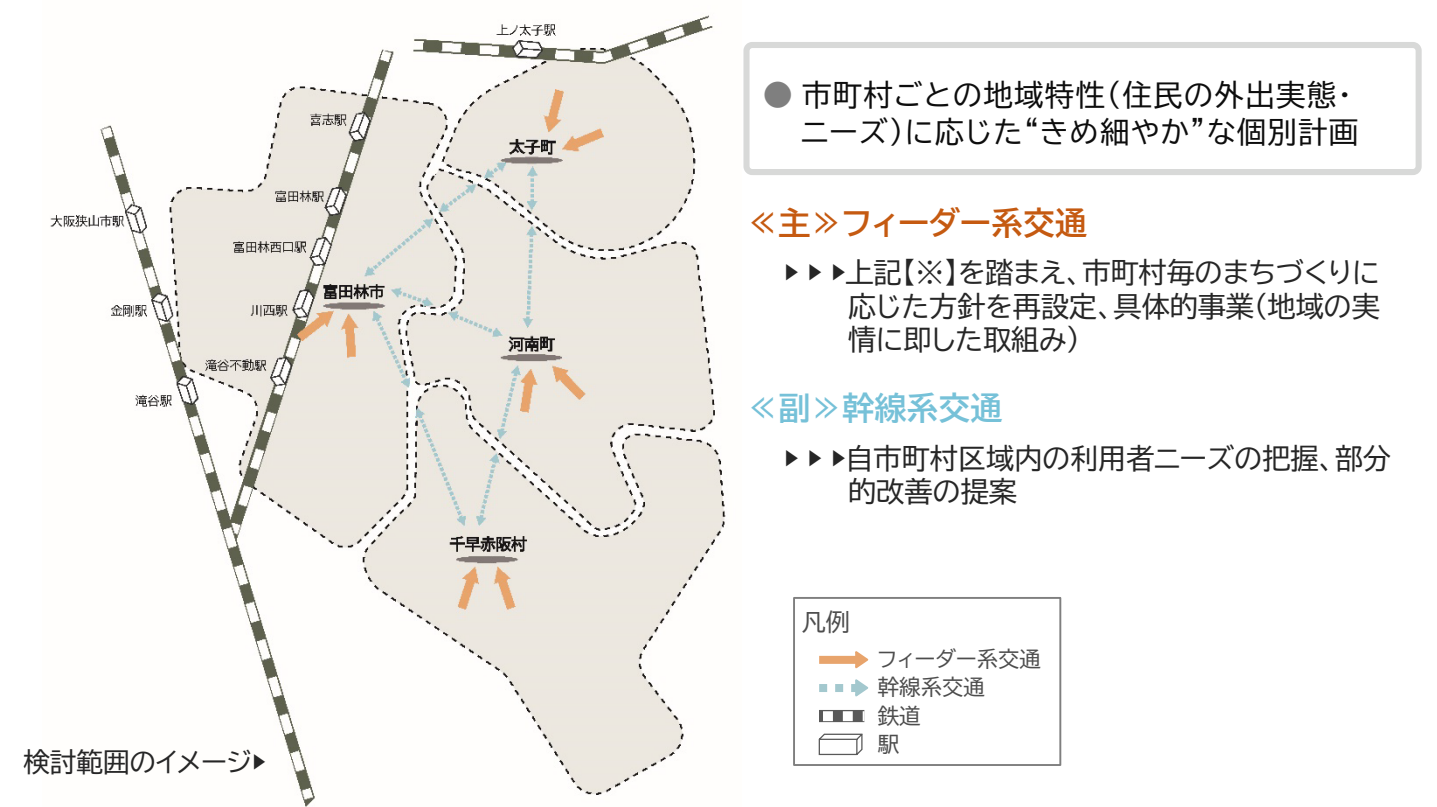


3 本計画で取扱う検討範囲

■ 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会地域公共交通計画



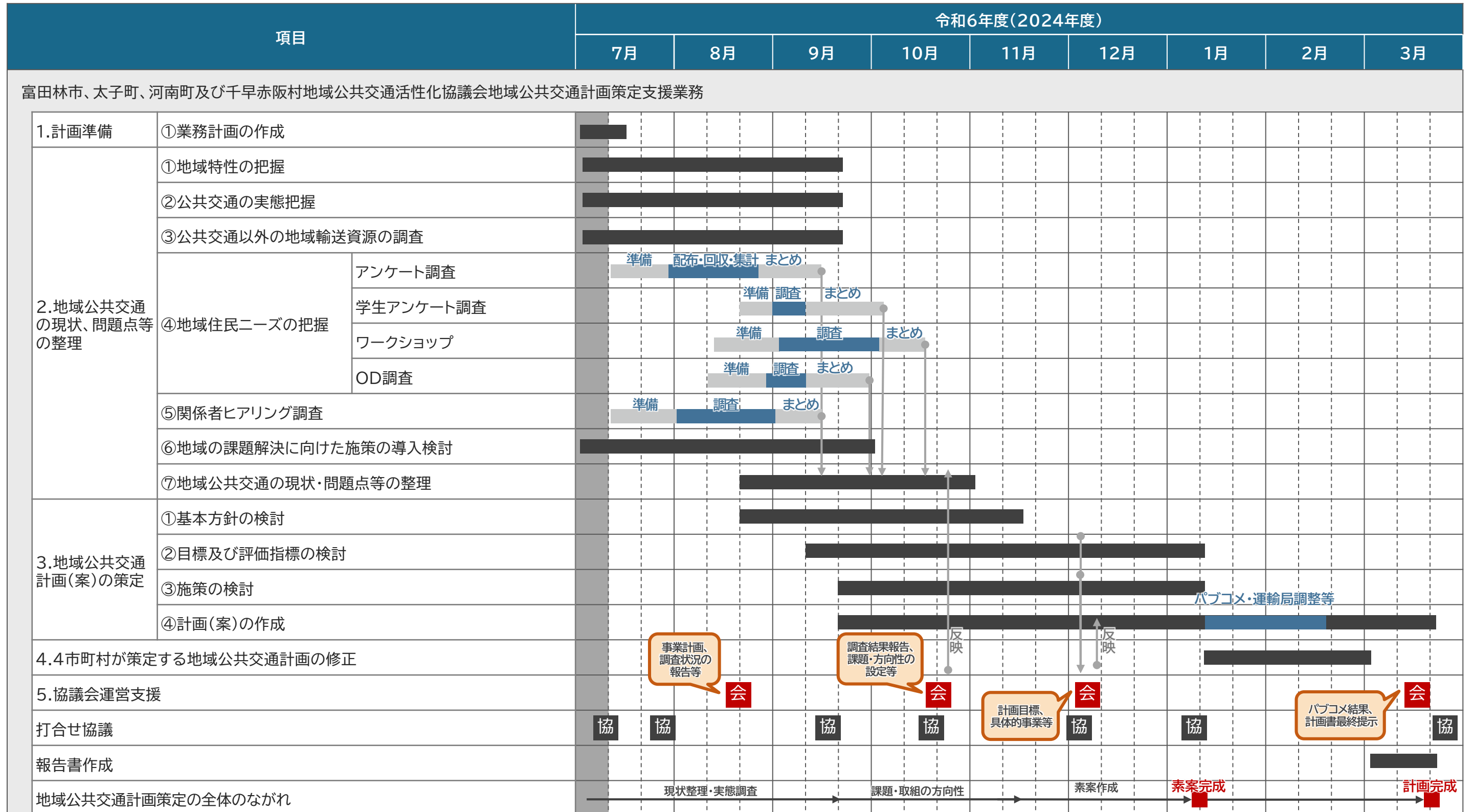
■ 各市町村の計画の検討範囲



1 事業スケジュール

●本事業の各種調査・検討については、以下の工程計画に従って進行するものとし、各打合せ協議や協議会時などの要所において進捗状況を管理しながら業務を遂行します。

- 8月23日 第1回協議会の実施(事業計画・調査計画の報告)
- 10月 第2回協議会の実施(調査結果の報告、課題・方向性の決定)
- 1月 地域公共交通計画(案)の完成(パブコメの実施)



1 地域特性の把握

- 人口減少・少子高齢化が急速に進行する本地域の人口分布状況や人口動向等について、公共交通需要の発生場所や将来的な見通しを検討するためのデータを構築します。
- 各地区の地理的特性、土地利用状況、道路・施設の立地状況等を把握し、公共交通の基盤やルート・ダイヤ検討用データとして構築します。

表 調査の実施方針

項目	内容	使用データ等
地理的特性	○地形、土地利用状況等 ○道路網、道路整備状況等	○地形データ、地図、道路網図等
地域特性	○人口分布(年齢階層・地区別)、人口動向、世帯数、高齢者単独世帯数、高齢化率	○国勢調査等
	○将来人口動向	○人口ビジョン・国勢調査等
	○通勤・通学、買い物、交流人口等	○国勢調査、住民アンケート調査、携帯位置情報ビッグデータ等
施設立地状況	○行政施設、商業施設、医療施設、福祉施設、子育て支援施設、教育施設、金融施設	○地図、現地確認、主要施設GISデータ等
関連計画	○公共交通に係る方針・施策、求められる機能等	○総合計画、立地適正化計画等
その他	既存アンケート調査等の内容把握 ※アフターコロナの生活様式の変化に留意	

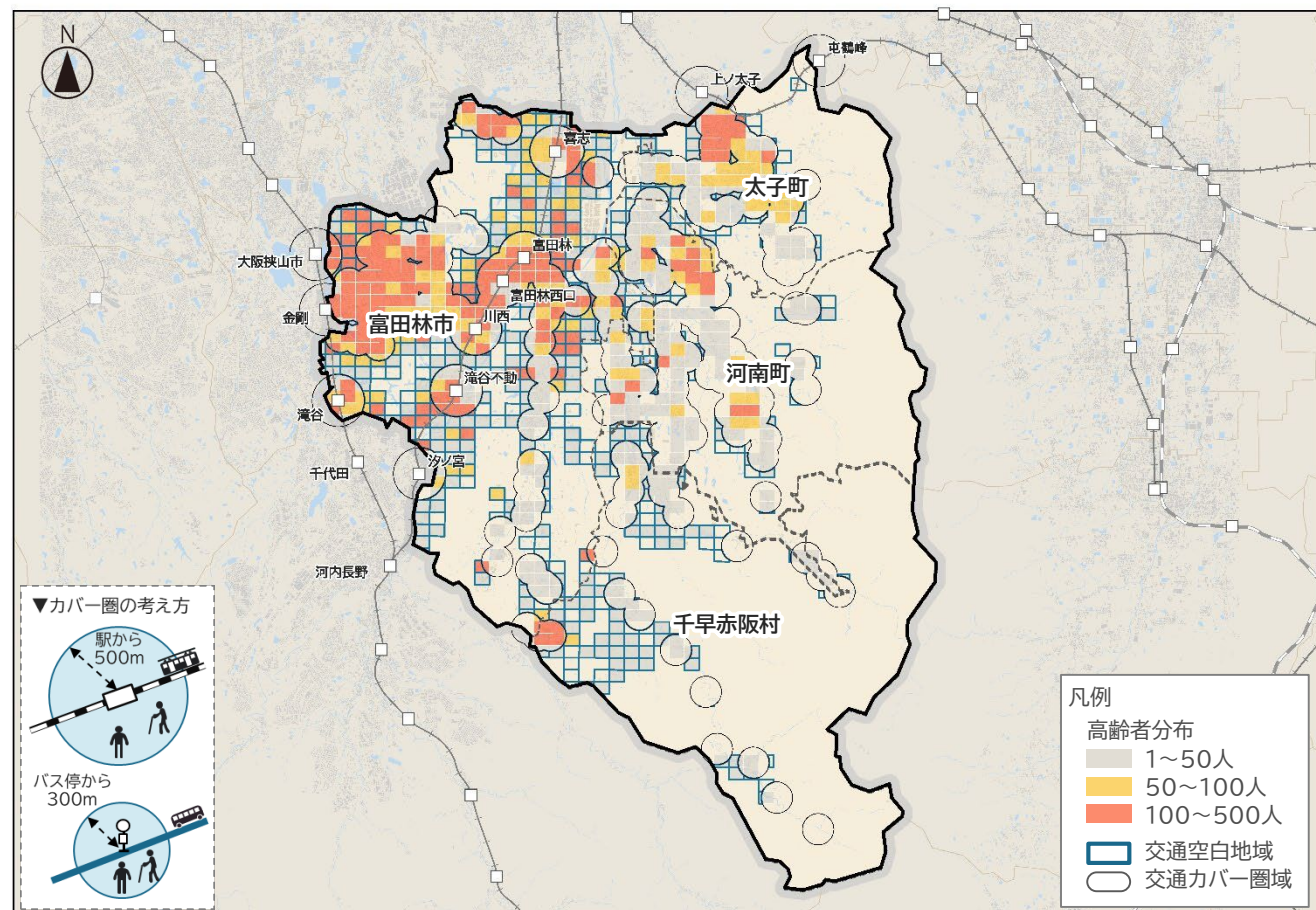


図 高齢者分布×交通カバー圏域

2 公共交通の実態把握

- 地域公共交通の実態を診断するため、市民の移動に係る輸送資源を網羅的に整理し、地域公共交通が抱える課題や改善等の方向性検討の基礎資料とします。

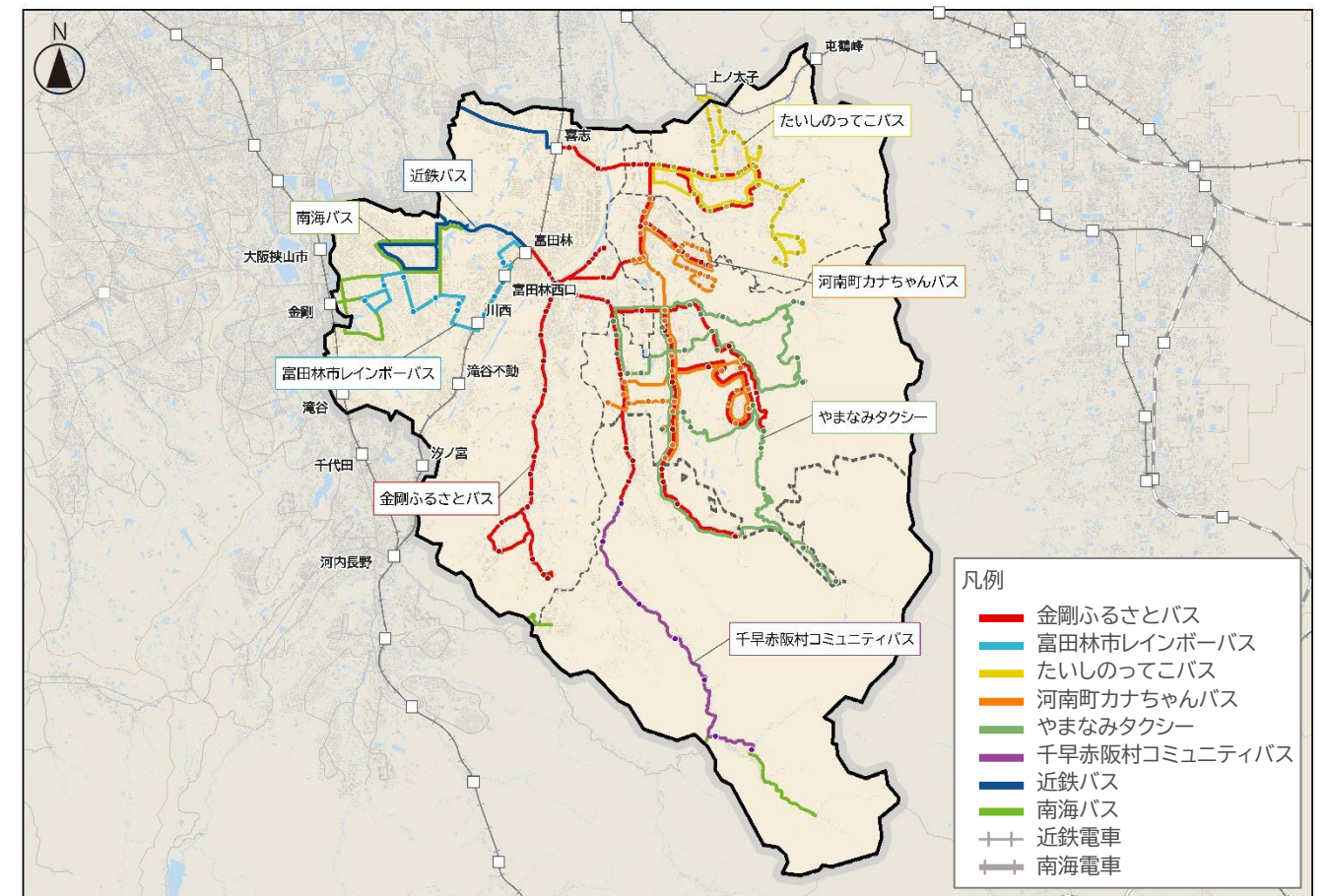


図 路線図

3 公共交通以外の地域輸送資源の調査

- 大阪芸術大学や初芝富田林中学・高校等の学校施設、富田林病院等の医療施設の送迎輸送など、多様な輸送資源がそれぞれの役割を果たしつつ、公共交通と相互に支え合う持続可能な運送サービスのあり方を検討するため、公共交通以外の地域輸送資源を整理します。

表 調査の実施方針

項目	実施方法・内容等
調査内容	○情報収集(インターネット等) ○運行状況の整理(運行エリア・ルート等)
調査方法	○令和6年7月下旬～9月下旬

【スクールバス】大阪芸術大学、大阪大谷大学、上宮太子高校、初芝富田林中学・高校 等
 【医療施設】PL 病院、富田林病院 等
 【その他施設】亀の井ホテル富田林、グランドホテル二葉 等

4 地域住民ニーズの把握・・・取組方針

(1) アンケート調査

- 住民の生活行動パターンや利用実態に基づく公共交通サービスの最適化と公共交通の利便性向上、潜在的な需要の掘り起こしに向けて、だれ(地区・年齢・目的)が、どこ(居住地)から、どこ(目的地)に、いつ(時間帯)移動しているか等、昨今の生活様式の変化に配慮して実施します。

表 調査の実施方針

項目	実施方法・内容等
調査内容	○提供サービスと生活行動・ニーズのズレ等を正確に検証するため、サービス水準や生活エリアが異なる地区単位に分けた特性を分析
調査方法	○郵送によるアンケートの配布/回収(A3両面)
調査対象	○富田林市(金剛ふるさとバス沿線地域)、太子町、河南町、千早赤阪村の住民 2,000人
回答期間	○令和6年8月2日(金)～8月16日(金) ※回答期間は2週間程度

- 調査票の設計：調査票は、地域住民の生活行動、公共交通の利用実態、現サービスの評価、今後の取組意向などを把握するため、以下のような視点から設問を設計します。

表 アンケート調査項目

分類	設計意図	設問	
基本属性の把握	地区毎・年齢毎などの視点から特性を分析	○年齢・性別	○職業
		○居住地区	○世帯人数・世帯構成
公共交通の利用状況	各地区の公共交通の利用有無、利用されない理由などの改善可能性	○地域内公共交通の利用状況、利用頻度、利用時間帯、満足度(鉄道、バス、タクシー、その他)	
		○公共交通に不便を感じる理由・原因(あてはまるもの3つまで)	
住民の外出状況の把握	地域住民の外出行動の特性を把握し、公共交通の需要を検証 ex) 居住地-目的地の関係から現行路線の改善を検証	(目的別に) 通勤・通学、買い物 通院、娯楽・趣味等	○普段の主な外出先(施設名称)
			○主な外出頻度
			○主な移動ルート
			○主な外出時間帯
自家用車の利用状況	自家用車を利用されている方の現状把握	○自家用車の利用状況	
送迎状況の把握	送迎をしている(されている)方の現状把握	○送迎の有無、頻度、時間帯	
		○送迎理由	
		○送迎に負担を感じているか	
金剛バス廃止後の変化	金剛バス廃止後の交通手段の変化の把握	○交通手段の変化の有無(何に代わったか)	
今後の取組への意向	公共交通維持に関わる取組意向を確認し、計画の方向性に反映	○公共交通維持に関わる行政の財政負担についての考え ▶運賃見直しにより現状維持、財政負担を増やしサービスを充実 運行の効率化等により財政負担を減らす	
	住民が思う必要な取組	○公共交通の維持・利用向上のために必要と思う取組	
その他	その他内容の把握	○自由解答欄 ▶公共交通に改善を期待する事、特定路線への要望など	

(2) 学生アンケート調査

※地域内の学校(高校、大学)への協力依頼を行い実施を予定

- 学生の通学実態や日常の移動状況、公共交通の利用状況や公共交通を利用しない要因などを把握し、まちの魅力向上のための大きな要因となると考える公共交通の利便性向上に向けた施策検討に反映します。

表 調査の実施方針

項目	実施方法・内容等
調査内容	○通学実態や日常の移動状況、公共交通の利用状況や公共交通を利用しない要因を把握
調査方法	○高校：ホームルーム等の時間を活用した配布型アンケート調査(A4両面) ○大学：QRコードによるWeb回答
調査対象	《高校》①河南高等学校 ②金剛高等学校 ③富田林中学校・高等学校 ④初芝富田林中学校・高等学校 } ※高校1年生 ⑤富田林支援学校 ⑥上宮太子高等学校 《大学》①大阪大谷大学 ②大阪芸術大学
回答期間	○令和6年9月2日(月)～9月6日(金)

- 調査票の設計：調査票は、通学実態や日常の移動状況、公共交通の利用状況や公共交通を利用しない要因を把握するため、以下のような視点から設問を設計します。

表 アンケート調査項目

分類	設計意図	設問
基本属性の把握	各回答について地区毎の視点から特性を分析	○居住地区(町丁目)
通学手段の実態把握	登下校時の行動特性を把握し、公共交通の需要を検証	○普段の通学手段で、利用する手段について
公共交通の利用実態	鉄道の利用実態・満足度の把握【利用者のみ】 バスの利用実態・満足度の把握【利用者のみ】 公共交通を利用する条件・可能性の特定	○登校時・下校時、乗車駅と主な時間帯について
		○鉄道利用に関する満足度について
		○鉄道利用時の定期券・回数券の利用状況について
今後の利用可能性	地域内を運行する公共交通の利用経験を把握	○自由回答欄(駅・鉄道に改善を期待することなど)
	運行情報の認知状況を把握	○利用しているバスの利用状況について(乗車区間・時間帯)
その他	その他内容の把握	○公共交通に関する満足度について
		○公共交通を利用する条件について
		○過去1年間に地域内を運行する公共交通の利用有無について【利用ありの回答者のみ】
		○利用する際の利用目的について
		○公共交通の運行情報等についての認知状況について(自宅・学校の最寄りのバス停など)
		○自由解答欄(地域公共交通に対するご意見など)

(3)ワークショップ

- 地域内で現状移動に困っていることや将来の移動に不安が生じていること、現状のサービスに対する要望などのアンケート調査で拾いきれない直接的な意見を収集します。

表 調査の実施方針

項目	実施方法・内容等
調査内容	○地域交通の実情、外出時の困りごとや公共交通サービスの改善要望 等
調査方法	○グループごとに分かれて意見交換
調査対象	○富田林市(「山中田・大伴地区」「東条地区」)、河南町(「大宝地区」「さくら坂地区」)、太子町、千早赤阪村
実施期間	○令和6年9月上旬～9月下旬

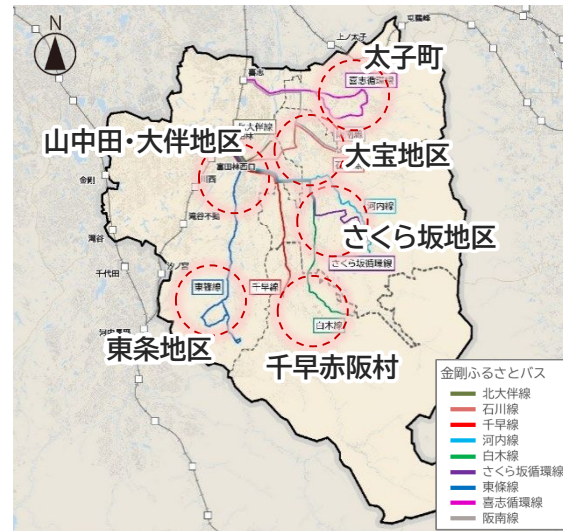


図 開催地区

(4)OD調査

※交通事業者様への協力依頼を行い実施を予定

- 住民の日常の外出移動の実態や公共交通の利用状況を把握しつつ、金剛バスの廃止の影響等を定量化し、提供サービスと利用者ニーズの乖離を整理することで、サービス改善内容の検討材料とします。

表 調査の実施方針

項目	実施方法・内容等
調査内容	○利用者毎の利用実態(乗降パターン抽出、空バス区間など) ○利用者の特徴
調査方法	○調査員の乗り込みによるカウント調査 ○インタビュー形式のヒアリング調査
調査対象	○コミュニティバス(金剛ふるさとバス、富田林市レインボーバス、たいしのってこバス、河南町カナちゃんバス、千早赤阪村コミュニティバス) ○乗合タクシー(やまなみタクシー)
実施期間	○令和6年9月上旬

表 ヒアリング調査項目

分類	設計意図	設問
基本属性の把握	コミバス利用者特性の把握	○居住地区
		○職業
本日の外出について	コミバス利用目的の把握	○性別・年齢
		○免許の保有状況
コミバス利用について	乗降場所の把握	○外出の目的
		○具体的な目的地
	コミバス利用状況の把握	○コミバスの利用頻度
		○自宅等から目的地まで、目的地から自宅までの移動手段
その他	コミバスに対して希望・要望を把握し、サービス改善の参考とする	○コミバスの満足度とその理由(ルート・行き先、運行本数、時間帯、乗り場の待機環境、車両の大きさ・乗り心地、情報の分かりやすさ)
		○コミバスに対して改善を期待する内容について
その他	その他内容の把握	○自由解答欄 ▶公共交通に改善を期待する事、特定路線への要望など

5 関係者ヒアリング調査

※交通事業者様施設関係者様関連部署への協力依頼を行い実施を予定

- 本事業における実施主体としての協力や、PDCAの構築に向けた連携の可能性を検証するため、交通事業者・施設関係者・関連部署へのヒアリングにより、事業者がもつ問題意識、施設来訪者の移動手段や公共交通の利用実態等を把握し、具体事業への反映を行います。

表 調査の実施方針

項目	実施方法・内容等
調査方法	○直接面談方式の聞き取り調査または書面調査(交通事業者・施設関係者・関連部署等)
実施期間	○令和6年8月上旬～8月下旬(各関係者と日程調整のうえ実施)

表 交通事業者、施設関係者の対象及び調査内容

分類	対象	ヒアリング内容
交通事業者	鉄道	近畿日本鉄道(株)、南海電鉄(株)
	バス	近鉄バス(株)、南海バス(株)
	タクシー	近鉄タクシー(株)、大阪第一交通
施設関係者	商業施設	ラ・ムー太子店、スーパーセンターオークワ河南店
	医療施設	PL病院、富田林病院、国民健康保険診療所
関連部署	富田林市	他分野の輸送サービス(教育施設、医療施設の送迎等)に関する担当課
	太子町	
	河南町	
	千早赤阪村	
		・運行実績の収集(利用実績・記録等) ・営業所の保有車両や規格、乗務員数、配車 ・利用者の特徴、住民からの要望 ・事業者がもつ運行上の課題、改善意見 等
		・施設を利用する公共交通利用者の特徴 ・公共交通利用者からの要望 ・本事業への協力・連携に対する意向
		・各分野の取組状況(移動支援や各取組の見通し) ・公共交通の運行、移動環境に関する問題意識 ・公共交通との連携意識、事業への協力意向 ・最新の交通施策への協力意向

6 地域の課題解決に向けた施策の導入検討

- 国内では交通に関わるDXの導入が進展しており、本地域でもまちづくりと公共交通に関する多くの課題を解決するため、これらの導入を検討する余地があります。しかし、これには維持管理のリスクなどもあるため、地域の身の丈に合った手段か否かの有用性を客観的に判断することが重要です。全国での実績を活かした事例調査のもと、本地域の課題解決に資する施策導入の可能性を検討します。

【地域公共交通の現状、問題点等の整理後の流れ】

- 地域公共交通計画(案)の作成では、基本方針や具体的な施策、目標値の設定等を検討し、本地域の公共交通を取り巻く環境の変化を見据えた地域公共交通の対応を示します。
なお、積極的に公共交通を利用していく地域住民の意識付けは重要と考えられますので、地域の実態を踏まえ利用促進の対象や方向性を示すなど、地域公共交通の維持・活性化に向けた取組を考えていきます。